

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 2019年2月7日

【四半期会計期間】 第135期第3四半期(自 2018年10月1日 至 2018年12月31日)

【会社名】 株式会社七十七銀行

【英訳名】 The 77 Bank, Ltd.

【代表者の役職氏名】 取締役頭取 小林 英文

【本店の所在の場所】 仙台市青葉区中央三丁目3番20号

【電話番号】 仙台(022)267局1111(大代表)

【事務連絡者氏名】 執行役員総合企画部長 小林 淳

【最寄りの連絡場所】 東京都中央区銀座四丁目14番11号  
株式会社七十七銀行東京事務所

【電話番号】 東京(03)3545局7620(代表)

【事務連絡者氏名】 東京事務所長 田 辺 茂

【縦覧に供する場所】 株式会社七十七銀行平支店  
(福島県いわき市平字三丁目14番地)  
株式会社七十七銀行東京支店  
(東京都中央区銀座四丁目14番11号)  
株式会社東京証券取引所  
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)  
証券会員制法人札幌証券取引所  
(札幌市中央区南一条西五丁目14番地の1)

## 第一部 【企業情報】

### 第1 【企業の概況】

#### 1 【主要な経営指標等の推移】

		2017年度 第3四半期連結 累計期間 (自2017年 4月1日 至2017年 12月31日)	2018年度 第3四半期連結 累計期間 (自2018年 4月1日 至2018年 12月31日)	2017年度 (自2017年 4月1日 至2018年 3月31日)
経常収益	百万円	87,268	82,693	113,180
経常利益	百万円	22,640	17,281	25,749
親会社株主に帰属する 四半期純利益	百万円	17,293	14,057	
親会社株主に帰属する 当期純利益	百万円			18,314
四半期包括利益	百万円	44,539	15,871	
包括利益	百万円			26,450
純資産額	百万円	508,828	471,768	490,737
総資産額	百万円	8,554,560	8,482,571	8,718,097
1株当たり四半期純利益	円	233.13	189.27	
1株当たり当期純利益	円			246.87
潜在株式調整後 1株当たり四半期純利益	円	232.61		
潜在株式調整後 1株当たり当期純利益	円			246.45
自己資本比率	%	5.9	5.5	5.6

		2017年度 第3四半期連結 会計期間 (自2017年 10月1日 至2017年 12月31日)	2018年度 第3四半期連結 会計期間 (自2018年 10月1日 至2018年 12月31日)
1株当たり四半期純利益	円	69.68	10.11

- (注) 1 当行及び連結子会社の消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜方式によっております。
- 2 2017年10月1日付で5株を1株に株式併合しております。2017年度の期首に当該株式併合が行われたと仮定して、1株当たり四半期(当期)純利益及び潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益を算出しております。
- 3 2018年度第3四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益は、潜在株式がないので記載しておりません。
- 4 自己資本比率は、(四半期)期末純資産の部合計を(四半期)期末資産の部の合計で除して算出してしております。

## 2 【事業の内容】

当第3四半期連結累計期間において、当行及び当行の関係会社が営む事業の内容については、重要な変更はありません。

主要な関係会社の異動について、七十七ビジネスサービス株式会社と七十七事務代行株式会社は、2018年3月31日付で解散し、同年6月29日付で清算終了しており、七十七コンピューターサービス株式会社は、2018年9月30日付で解散し、同年12月28日付で清算終了しております。また、2018年7月18日付で、七十七リサーチ&コンサルティング株式会社を設立しております。

この結果、2018年12月31日現在において、当行及び当行の関係会社は、当行、子会社7社で構成されております。

(注) 七十七リサーチ&コンサルティング株式会社は、2018年9月に解散しました七十七コンピューターサービス株式会社の電子計算機器等による計算業務の受託を引き継いでおります。

## 第2 【事業の状況】

### 1 【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において、当行及び当行の関係会社の事業等のリスクに重要な変更はありません。

### 2 【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

#### (1) 財政状態及び経営成績の状況

当第3四半期連結累計期間におけるわが国の経済情勢をみますと、雇用・所得環境の改善等を背景に個人消費が持ち直しの動きとなったほか、企業収益が改善するなかで設備投資が増加傾向を続けるなど、景気は、緩やかな回復を続けました。

一方、主要営業基盤である宮城県の景況は、東日本大震災からの復興需要の反動などから、回復の動きが鈍化してきているものの、経済活動は総じて高水準で推移しました。

このようななか、当行及び連結子会社による当第3四半期連結累計期間の業績は、次のとおりとなりました。

預金(譲渡性預金を含む)は、個人預金は増加したものの、公金預金が減少したこと等から、当第3四半期連結累計期間中2,152億円減少し、当第3四半期連結会計期間末残高は7兆7,308億円となり、前第3四半期連結会計期間末との比較でも同様に、241億円の減少となりました。

貸出金は、中小企業向け貸出および住宅ローンを中心に個人向け貸出が増加したこと等から、当第3四半期連結累計期間中1,177億円増加し、当第3四半期連結会計期間末残高は4兆7,388億円となり、前第3四半期連結会計期間末との比較でも、中小企業等向け貸出が増加したこと等から、1,812億円の増加となりました。

有価証券は、国債の運用額が減少したこと等から、当第3四半期連結累計期間中1,395億円減少し、当第3四半期連結会計期間末残高は2兆9,823億円となり、前第3四半期連結会計期間末との比較でも、国債を中心に2,218億円の減少となりました。

なお、総資産の当第3四半期連結会計期間末残高は、当第3四半期連結累計期間中2,355億円減少の8兆4,825億円となり、前第3四半期連結会計期間末との比較でも719億円の減少となりました。

損益状況につきましては、当第3四半期連結累計期間の経常収益は、貸出金利息は増加したものの、有価証券利息配当金の減少等により資金運用収益が減少したこと等から、前第3四半期連結累計期間比45億75百万円減少の826億93百万円となりました。他方、経常費用は、与信関係費用の増加等によりその他経常費用が増加したこと等から、前第3四半期連結累計期間比7億84百万円増加の654億12百万円となりました。

この結果、当第3四半期連結累計期間の経常利益は、前第3四半期連結累計期間比53億59百万円減少の172億81百万円、親会社株主に帰属する四半期純利益は、前第3四半期連結累計期間比32億36百万円減少の140億57百万円となりました。

国内・国際業務部門別収支

当第3四半期連結累計期間の資金運用収支は、国内業務部門において資金運用収益の減少を主因に前第3四半期連結累計期間比48億53百万円減少したことから、合計で前第3四半期連結累計期間比43億77百万円減少の499億97百万円となりました。

また、役務取引等収支は、国内業務部門での収益の増加を主因に、前第3四半期連結累計期間比3億20百万円増加の85億12百万円となり、その他業務収支は、国債等債券償還損の減少等により、前第3四半期連結累計期間比28億53百万円改善の27億92百万円となりました。

種類	期別	国内業務部門	国際業務部門	相殺消去額( )	合計
		金額(百万円)	金額(百万円)	金額(百万円)	金額(百万円)
資金運用収支	前第3四半期連結累計期間	51,092	3,281	-	54,374
	当第3四半期連結累計期間	46,239	3,757	-	49,997
うち資金運用収益	前第3四半期連結累計期間	52,429	4,279	51	56,657
	当第3四半期連結累計期間	47,371	5,276	29	52,618
うち資金調達費用	前第3四半期連結累計期間	1,336	997	51	2,283
	当第3四半期連結累計期間	1,131	1,519	29	2,621
役務取引等収支	前第3四半期連結累計期間	8,158	33	-	8,192
	当第3四半期連結累計期間	8,464	47	-	8,512
うち役務取引等収益	前第3四半期連結累計期間	12,707	92	-	12,799
	当第3四半期連結累計期間	13,202	100	-	13,303
うち役務取引等費用	前第3四半期連結累計期間	4,548	58	-	4,607
	当第3四半期連結累計期間	4,738	53	-	4,791
その他業務収支	前第3四半期連結累計期間	3,278	2,367	-	5,645
	当第3四半期連結累計期間	314	3,106	-	2,792
うちその他業務収益	前第3四半期連結累計期間	7,521	435	17	7,939
	当第3四半期連結累計期間	7,797	372	91	8,077
うちその他業務費用	前第3四半期連結累計期間	10,800	2,802	17	13,585
	当第3四半期連結累計期間	7,482	3,479	91	10,870

- (注) 1 国内業務部門は当行及び連結子会社の円建取引、国際業務部門は当行及び連結子会社の外貨建取引であります。ただし、円建対非居住者取引、特別国際金融取引勘定分等は国際業務部門に含めております。
- 2 資金調達費用は金銭の信託運用見合費用(前第3四半期連結累計期間25百万円、当第3四半期連結累計期間21百万円)を控除して表示しております。
- 3 相殺消去額は、国内業務部門と国際業務部門の間の資金貸借の利息等であります。

国内・国際業務部門別預金残高の状況  
預金の種類別残高(未残)

種類	期別	国内業務部門	国際業務部門	合計
		金額(百万円)	金額(百万円)	金額(百万円)
預金合計	前第3四半期連結会計期間	7,234,289	55,710	7,289,999
	当第3四半期連結会計期間	7,276,273	44,926	7,321,200
うち流動性預金	前第3四半期連結会計期間	4,827,666	-	4,827,666
	当第3四半期連結会計期間	4,929,081	-	4,929,081
うち定期性預金	前第3四半期連結会計期間	2,390,560	-	2,390,560
	当第3四半期連結会計期間	2,319,884	-	2,319,884
うちその他	前第3四半期連結会計期間	16,062	55,710	71,772
	当第3四半期連結会計期間	27,307	44,926	72,234
譲渡性預金	前第3四半期連結会計期間	465,030	-	465,030
	当第3四半期連結会計期間	409,640	-	409,640
総合計	前第3四半期連結会計期間	7,699,319	55,710	7,755,029
	当第3四半期連結会計期間	7,685,913	44,926	7,730,840

- (注) 1 国内業務部門は当行及び連結子会社の円建取引、国際業務部門は当行及び連結子会社の外貨建取引であります。ただし、円建対非居住者取引、特別国際金融取引勘定分等は国際業務部門に含めております。
- 2 流動性預金 = 当座預金 + 普通預金 + 貯蓄預金 + 通知預金
- 3 定期性預金 = 定期預金 + 定期積金

国内・特別国際金融取引勘定別貸出金残高の状況  
業種別貸出状況(未残・構成比)

業種別	前第3四半期連結会計期間		当第3四半期連結会計期間	
	金額(百万円)	構成比(%)	金額(百万円)	構成比(%)
国内(除く特別国際金融取引勘定分)	4,557,584	100.00	4,738,855	100.00
製造業	457,868	10.05	451,742	9.53
農業、林業	5,722	0.13	6,588	0.14
漁業	5,552	0.12	5,651	0.12
鉱業、採石業、砂利採取業	3,600	0.08	4,087	0.09
建設業	155,390	3.41	151,407	3.20
電気・ガス・熱供給・水道業	158,095	3.47	189,244	3.99
情報通信業	21,215	0.46	28,192	0.60
運輸業、郵便業	128,622	2.82	128,650	2.71
卸売業、小売業	411,640	9.03	405,333	8.55
金融業、保険業	277,612	6.09	293,166	6.19
不動産業、物品賃貸業	893,307	19.60	965,538	20.37
その他サービス業	330,480	7.25	342,679	7.23
地方公共団体	628,327	13.79	641,031	13.53
その他	1,080,145	23.70	1,125,542	23.75
特別国際金融取引勘定分	-	-	-	-
政府等	-	-	-	-
金融機関	-	-	-	-
その他	-	-	-	-
合計	4,557,584		4,738,855	

(2) 経営方針、経営環境並びに事業上及び財務上の対処すべき課題等

当第3四半期連結累計期間において、当行及び当行の関係会社の経営方針、経営環境並びに事業上及び財務上の対処すべき課題等に重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

3 【経営上の重要な契約等】

該当事項はありません。

### 第3 【提出会社の状況】

#### 1 【株式等の状況】

##### (1) 【株式の総数等】

###### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	268,800,000
計	268,800,000

###### 【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間 末現在発行数(株) (2018年12月31日)	提出日現在 発行数(株) (2019年2月7日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	76,655,746	同左	東京証券取引所 (市場第一部) 札幌証券取引所	完全議決権株式であり、権利 内容に何ら限定のない当行に おける標準となる株式 (単元株式数100株)
計	76,655,746	同左		

##### (2) 【新株予約権等の状況】

###### 【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

###### 【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

##### (3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

##### (4) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (千株)	発行済株式 総数残高 (千株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
2018年12月31日		76,655		24,658		7,835

##### (5) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。



(6) 【議決権の状況】

【発行済株式】

2018年12月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 1,900,800		権利内容に何ら限定のない当行における標準となる株式 (単元株式数100株)
完全議決権株式(その他)	普通株式 74,541,600	745,416	同上
単元未満株式	普通株式 213,346		権利内容に何ら限定のない当行における標準となる株式
発行済株式総数	76,655,746		
総株主の議決権		745,416	

(注) 1 「単元未満株式」欄の普通株式には、当行所有の自己株式97株及び役員報酬B I P信託が保有する当行株式150株が含まれております。

2 「完全議決権株式(その他)」欄の普通株式には、役員報酬B I P信託が保有する当行株式452,800株(議決権4,528個)が含まれております。なお、当該議決権4,528個は、議決権不行使となっております。

【自己株式等】

2018年12月31日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式総数 に対する所有株 式数の割合(%)
(自己保有株式) 株式会社七十七銀行	仙台市青葉区中央三丁目 3番20号	1,900,800		1,900,800	2.47
計		1,900,800		1,900,800	2.47

(注) 役員報酬B I P信託が保有する当行株式452,800株は、上記自己株式に含まれておりません。

2 【役員状況】

前事業年度の有価証券報告書の提出日後、当四半期累計期間における役員の異動はありません。

## 第4 【経理の状況】

- 1 当行の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(2007年内閣府令第64号)に基づいて作成しておりますが、資産及び負債の分類並びに収益及び費用の分類は、「銀行法施行規則」(1982年大蔵省令第10号)に準拠しております。
- 2 当行は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間(自2018年10月1日 至2018年12月31日)及び第3四半期連結累計期間(自2018年4月1日 至2018年12月31日)に係る四半期連結財務諸表について、有限責任監査法人トーマツの四半期レビューを受けております。

## 1 【四半期連結財務諸表】

## (1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2018年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2018年12月31日)
<b>資産の部</b>		
現金預け金	705,563	413,229
コールローン及び買入手形	530	65,508
買入金銭債権	4,895	4,433
商品有価証券	24,975	20,057
金銭の信託	170,985	166,019
有価証券	3,121,890	2,982,348
貸出金	<sup>1</sup> 4,621,062	<sup>1</sup> 4,738,855
外国為替	5,956	6,190
リース債権及びリース投資資産	16,124	16,846
その他資産	43,260	69,414
有形固定資産	35,128	33,269
無形固定資産	341	323
繰延税金資産	859	1,195
支払承諾見返	29,060	28,663
貸倒引当金	62,537	63,784
<b>資産の部合計</b>	<b>8,718,097</b>	<b>8,482,571</b>
<b>負債の部</b>		
預金	7,464,530	7,321,200
譲渡性預金	481,570	409,640
コールマネー及び売渡手形	14,342	15,850
債券貸借取引受入担保金	12,886	24,468
借入金	111,704	114,281
外国為替	113	233
その他負債	49,130	47,081
役員賞与引当金	92	-
退職給付に係る負債	33,749	32,538
役員退職慰労引当金	52	25
株式給付引当金	876	720
睡眠預金払戻損失引当金	455	408
偶発損失引当金	695	834
特別法上の引当金	0	0
繰延税金負債	28,100	14,855
支払承諾	29,060	28,663
<b>負債の部合計</b>	<b>8,227,360</b>	<b>8,010,802</b>
<b>純資産の部</b>		
資本金	24,658	24,658
資本剰余金	20,517	20,517
利益剰余金	332,619	343,312
自己株式	6,658	6,391
<b>株主資本合計</b>	<b>371,137</b>	<b>382,097</b>
その他有価証券評価差額金	127,283	96,483
繰延ヘッジ損益	1,473	1,403
退職給付に係る調整累計額	6,209	5,408
<b>その他の包括利益累計額合計</b>	<b>119,600</b>	<b>89,671</b>
<b>純資産の部合計</b>	<b>490,737</b>	<b>471,768</b>
<b>負債及び純資産の部合計</b>	<b>8,718,097</b>	<b>8,482,571</b>

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自2017年4月1日 至2017年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自2018年4月1日 至2018年12月31日)
経常収益	87,268	82,693
資金運用収益	56,657	52,618
(うち貸出金利息)	31,140	31,601
(うち有価証券利息配当金)	25,359	20,790
役務取引等収益	12,799	13,303
その他業務収益	7,939	8,077
その他経常収益	<sup>1</sup> 9,871	<sup>1</sup> 8,694
経常費用	64,628	65,412
資金調達費用	2,308	2,643
(うち預金利息)	948	1,053
役務取引等費用	4,607	4,791
その他業務費用	13,585	10,870
営業経費	43,212	43,299
その他経常費用	<sup>2</sup> 914	<sup>2</sup> 3,807
経常利益	22,640	17,281
特別利益	-	-
特別損失	293	220
減損損失	293	220
金融商品取引責任準備金繰入額	0	0
税金等調整前四半期純利益	22,346	17,061
法人税、住民税及び事業税	3,129	3,574
法人税等調整額	1,923	570
法人税等合計	5,052	3,004
四半期純利益	17,293	14,057
親会社株主に帰属する四半期純利益	17,293	14,057

【四半期連結包括利益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2017年4月1日 至 2017年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年12月31日)
四半期純利益	17,293	14,057
その他の包括利益	27,245	29,928
<sub>  </sub> 其他有価証券評価差額金	25,998	30,800
繰延ヘッジ損益	246	69
退職給付に係る調整額	1,000	801
四半期包括利益	44,539	15,871
(内訳)		
<sub>  </sub> 親会社株主に係る四半期包括利益	44,539	15,871

【注記事項】

(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)

当第3四半期連結累計期間(自 2018年4月1日 至 2018年12月31日)

連結の範囲の重要な変更

七十七ビジネスサービス株式会社と七十七事務代行株式会社は、清算終了したため、第1四半期連結会計期間より連結の範囲から除外しております。

七十七リサーチ&コンサルティング株式会社は、新規設立により、第2四半期連結会計期間から連結の範囲に含めております。

七十七コンピューターサービス株式会社は、清算終了したため、当第3四半期連結会計期間より連結の範囲から除外しております。

(追加情報)

「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号 2018年2月16日)等を第1四半期連結会計期間から適用しております。

(四半期連結貸借対照表関係)

- 1 貸出金のうち、リスク管理債権は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (2018年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2018年12月31日)
破綻先債権額	3,074百万円	6,421百万円
延滞債権額	67,665百万円	64,889百万円
3カ月以上延滞債権額	1,900百万円	1,234百万円
貸出条件緩和債権額	26,235百万円	26,441百万円
合計額	98,876百万円	98,987百万円

なお、上記債権額は、貸倒引当金控除前の金額であります。

(四半期連結損益計算書関係)

- 1 その他経常収益には、次のものを含んでおります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 2017年4月1日 至 2017年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年12月31日)
貸倒引当金戻入益	2,182百万円	- 百万円

- 2 その他経常費用には、次のものを含んでおります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 2017年4月1日 至 2017年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年12月31日)
債権売却損	239百万円	55百万円
貸倒引当金繰入額	- 百万円	1,818百万円

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費(無形固定資産に係る償却費を含む。)は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 2017年4月1日 至 2017年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年12月31日)
減価償却費	2,650百万円	3,235百万円

(株主資本等関係)

前第3四半期連結累計期間(自 2017年4月1日 至 2017年12月31日)

1 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2017年6月29日 定時株主総会	普通株式	1,667	4.5	2017年3月31日	2017年6月30日	利益剰余金
2017年11月10日 取締役会	普通株式	1,682	4.5	2017年9月30日	2017年12月8日	利益剰余金

2 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の末日  
後となるもの

該当事項はありません。

当第3四半期連結累計期間(自 2018年4月1日 至 2018年12月31日)

1 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2018年6月28日 定時株主総会	普通株式	1,682	22.5	2018年3月31日	2018年6月29日	利益剰余金
2018年11月9日 取締役会	普通株式	1,681	22.5	2018年9月30日	2018年12月7日	利益剰余金

2 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の末日  
後となるもの

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

当行グループは、銀行業務を中心に、リース業務、その他の金融サービスに係る事業を行っております。当行グループの報告セグメントは、そのセグメントごとに分離された財務情報が入手可能なものであり、経営陣による定期的な業績評価及び資源配分の意思決定を行う対象となっているものです。

当行グループの報告セグメントは「銀行業務」のみであり、「その他」の重要性が乏しいことから、記載を省略しております。



(有価証券関係)

企業集団の事業の運営において重要なものであり、前連結会計年度の末日に比して著しい変動が認められるものは、次のとおりであります。

その他有価証券

前連結会計年度(2018年3月31日)

	取得原価(百万円)	連結貸借対照表計上額 (百万円)	差額(百万円)
株式	55,931	146,408	90,476
債券	2,305,308	2,330,571	25,262
国債	977,588	988,521	10,933
地方債	377,441	381,867	4,426
社債	950,278	960,182	9,903
その他	584,564	632,241	47,677
合計	2,945,804	3,109,221	163,417

当第3四半期連結会計期間(2018年12月31日)

	取得原価(百万円)	四半期連結貸借対照表 計上額(百万円)	差額(百万円)
株式	53,264	123,287	70,022
債券	2,198,480	2,221,266	22,786
国債	775,177	783,098	7,921
地方債	472,205	478,414	6,209
社債	951,098	959,753	8,654
その他	594,034	626,789	32,754
合計	2,845,779	2,971,343	125,563

(注) その他有価証券のうち、当該有価証券の時価が取得原価に比べて著しく下落しており、時価が取得原価まで回復する見込みがあると認められないものについては、当該時価をもって四半期連結貸借対照表計上額(連結貸借対照表計上額)とするとともに、評価差額を当該第3四半期連結累計期間(連結会計年度)の損失として処理(以下、「減損処理」という。)しております。

前連結会計年度における減損処理額は、99百万円(うち、その他99百万円)であります。

当第3四半期連結累計期間における減損処理額は、46百万円(うち、株式46百万円)であります。

また、時価が「著しく下落した」と判断するための基準は、資産の自己査定基準において、有価証券の発行会社等の区分毎に次のとおり定めております。

正常先	時価が取得原価に比べて50%以上下落または、時価が取得原価に比べて30%以上50%未満下落したもので、過去1か月間の時価の平均が取得原価に比べて50%(一定以上の信用リスクを有すると認められるものは30%)以上下落
要注意先	時価が取得原価に比べて30%以上下落
破綻先、実質破綻先、破綻懸念先	時価が取得原価に比べて下落

なお、要注意先とは今後管理に注意を要する債務者、正常先とは破綻先、実質破綻先、破綻懸念先及び要注意先以外の債務者であります。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益及び算定上の基礎並びに潜在株式調整後1株当たり四半期純利益及び算定上の基礎は、次のとおりであります。

		前第3四半期連結累計期間 (自 2017年4月1日 至 2017年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年12月31日)
(1) 1株当たり四半期純利益	円	233.13	189.27
(算定上の基礎)			
親会社株主に帰属する四半期純利益	百万円	17,293	14,057
普通株主に帰属しない金額	百万円	-	-
普通株式に係る親会社株主に帰属する四半期純利益	百万円	17,293	14,057
普通株式の期中平均株式数	千株	74,178	74,266
(2) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益	円	232.61	-
(算定上の基礎)			
親会社株主に帰属する四半期純利益調整額	百万円	-	-
普通株式増加数	千株	166	-
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益の算定に含めなかった潜在株式で、前連結会計年度末から重要な変動があったものの概要		-	-

(注) 1 2017年10月1日付で5株を1株に株式併合しております。前連結会計年度の期首に株式併合が行われたと仮定して、1株当たり四半期純利益及び潜在株式調整後1株当たり四半期純利益を算出しております。

2 当第3四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式がないので記載していません。

2 【その他】

中間配当

2018年11月9日開催の取締役会において、第135期の中間配当につき次のとおり決議しました。

中間配当金額 1,681百万円

1株当たりの中間配当金 22円50銭

## 第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

## 独立監査人の四半期レビュー報告書

2019年2月5日

株式会社七十七銀行

取締役会 御中

有限責任監査法人 トーマツ

指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	菅	博	雄
--------------------	-------	---	---	---

指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	深	田	建太郎
--------------------	-------	---	---	-----

指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	木	村	大輔
--------------------	-------	---	---	----

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社七十七銀行の2018年4月1日から2019年3月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間(2018年10月1日から2018年12月31日まで)及び第3四半期連結累計期間(2018年4月1日から2018年12月31日まで)に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

### 四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

### 監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社七十七銀行及び連結子会社の2018年12月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する第3四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

- (注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当行(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。
2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。